2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	手話	担当教員 （実務経験）	山本　浩司 有 ☐　無 ☑		
対象年次・学期	3年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	8回	時間数	15時間
授業目的	聴覚障がい（者）を理解し、手話や指文字、口話などを使って伝え合う方法を学ぶ。				
到達目標	・自己紹介など簡単な手話ができる。 ・「手話」「聴覚障がい」について基本的な事柄の説明ができる。				
テキスト・ 参考図書等	『さっぽろの手話』 さっぽろの手話編纂委員会　交易社団法人札幌聴聴覚障害者協会				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70%	授業後のまとめ（提出物）などを含めて「手話などの読み取り」や「課題文の手話表現」、「手話」、「聴覚障がい」の基本的理解の観点で評価する
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	20%	
	その他	10%	

履修上の 留意事項	教科書をもとに、日常生活を想定した基本的な手話を学ぶ（実技）と、ビデオなどで実際的なコミュニケーションを学びます。 手話などの学習をとおして豊かな表現力を身につけてほしいと思います。 聴覚障がい者と出会ったとき、積極的にコミュニケーションする人になってほしいと願っています。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	表現し、伝え合ってみよう	手話などの基本的な理解、挨拶等の表現
	2	名前や誕生日、出身等の紹介	自己紹介（名前や年齢等）、歌の手話表現（1）
	3	家族の紹介、趣味の紹介	自己紹介（趣味や家族等）、心情の表現、歌の手話表現（2）
	4	食事会、道案内、明日の予定	連絡、相談、報告、歌の手話表現（3）
	5	数字の使い方、指文字	数単位、指文字の使い方、歌の手話表現（4）
	6	仕事の話、昨日のこと	日常会話1（伝え方の工夫）、歌の手話表現（5）
	7	どうしたんですか？	日常会話2（質問と応答）、歌の手話表現（6）
	8	自己紹介（スピーチ）	復習（短いスピーチの表現と読み取り、歌の手話表現）
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	点字	担当教員 （実務経験）	前佛　誠 有 ☐　無 ☑		
対象年次・学期	3年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	8回	時間数	15時間
授業目的	社会福祉学科に学び、将来関係する職に就く者が、視覚障害者用（盲人用）文字としての点字を正しく理解し、障害者のコミュニケーション手段として、ある程度活用できることは意義深いことである。読み方、書き方の基礎・基本を中心に、正しい表記法で簡単な点字文章が書ける程度までを期待したい。また、点訳ボランティアの仕事に興味を持っていただけるとありがたい。				
到達目標	点字表記法の基本を理解し、簡単な点字文章を読み書きができる。				
テキスト・ 参考図書等	『点訳のしおり（2021(令和3）年4月20日新版第2刷発行）』　社会福祉法人日本点字図書館				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	毎回の提出物の評価及び「読み」・「書き」を中心としたテストにより成績評価を行う。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	20%	
	その他	%	

履修上の 留意事項	プリント及びテキスト「点訳のしおり」を活用し、いずれの回も点字文を作成し、毎回提出する。点字は、「読む」場合と点字盤で「書く」場合とでは表裏の関係になる。毎時間の授業が常に大切である。8回という非常に少ない授業時数であるので、気を抜くことなく授業に参加することを期待する。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション、盲人用文字	視覚障害者と文字、点字の歴史、身の回りの点字、50音
	2	点字の読み書き（1）	濁音、半濁音、拗音、撥音、促音、長音、数字　等
	3	点字の読み書き（2）	アルファベット、外来語、各種記号、各種点字器　等
	4	点字の表記法（1）	仮名遣い、数字・アルファベットを含む文　等
	5	点字の表記法（2）	分かち書きの原則①　等
	6	点字の表記法（3）	分かち書きの原則②　等
	7	書き方の形式他	分かち書きの原則③、各種書式、点字文章の読み書きドリル　等
	8	点字文章の作成とまとめ	点字表記法の復習、点字文章作成、まとめ
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	医療的ケアⅡ	担当教員 （実務経験）	阿部　幸恵 有 ☑　無 ☐　看護師として病院に勤務		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	安全な喀痰吸引、経管栄養実施のため、確実な手技を習得する。				
到達目標	口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内吸引、経鼻経管栄養、胃ろう又は腸ろうによる経管栄養の評価項目について手順通りに実施できる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座15医療的ケア　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	喀痰吸引（鼻腔内、口腔内、気管カニューレ内）、経管栄養（経鼻、胃ろう又は腸ろう）のすべての行為において5回以上演習を実施する。実施5回目以降にすべての項目についての評価結果が「基本研修（演習）評価基準」で示す手順どおりに実施できているとなった場合、演習の修了を認める。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	100%	

履修上の 留意事項	身だしなみを整え取り組んでください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション （阿部・児玉・嶌田・渡邊）	評価を受けるにあたっての心構え・オリエンテーション　物品チェックなど
	2	喀痰吸引法 （阿部・児玉・嶌田・渡邊）	鼻腔内吸引手順・評価試験
	3	喀痰吸引法 （阿部・児玉・嶌田・渡邊）	鼻腔内吸引手順・評価試験
	4	喀痰吸引法 （阿部・児玉・嶌田・渡邊）	鼻腔内吸引手順・評価試験
	5	喀痰吸引法 （阿部・児玉・嶌田・渡邊）	口腔内吸引手順・評価試験
	6	喀痰吸引法 （阿部・児玉・嶌田・渡邊）	口腔内吸引手順・評価試験
	7	喀痰吸引法 （阿部・児玉・嶌田・渡邊）	口腔内吸引手順・評価試験
	8	喀痰吸引法 （阿部・児玉・嶌田・渡邊）	気管カニューレ内吸引手順・評価試験
	9	喀痰吸引法 （阿部・児玉・嶌田・渡邊）	気管カニューレ内吸引手順・評価試験
	10	喀痰吸引法 （阿部・児玉・嶌田・渡邊）	気管カニューレ内吸引手順・評価試験
	11	経管栄養法 （阿部・児玉・嶌田・渡邊）	経鼻経管栄養手順・評価試験
	12	経管栄養法 （阿部・児玉・嶌田・渡邊）	経鼻経管栄養手順・評価試験
	13	経管栄養法 （阿部・児玉・嶌田・渡邊）	経鼻経管栄養手順・評価試験
	14	経管栄養法 （阿部・児玉・嶌田・渡邊）	胃ろう経管栄養手順・評価試験
	15	経管栄養法 （阿部・児玉・嶌田・渡邊）	胃ろう経管栄養手順・評価試験

授業科目 （科目ID）	医療的ケアⅡ	担当教員 （実務経験）	児玉　尚子 有 ☑ 無 ☐ 看護師として病院に勤務
対象年次・学期	3年・前期	担当教員 （実務経験）	嶌田　美穂子 有 ☑ 無 ☐ 看護師として病院に勤務
授業形態	演習		
		担当教員 （実務経験）	渡邊　一栄 有 ☑ 無 ☐ 看護師として病院に勤務
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	保健医療と福祉	担当教員 （実務経験）	高泉　一生 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として病院に勤務		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	保健医療の動向、保健医療に係る政策・制度・サービス、保健医療領域における社会福祉士の役割、多職種連携や協働、保健医療の課題を持つ人に対する社会福祉士としての適切な支援のあり方を学ぶ。				
到達目標	①疾病構造の変化や在宅医療推進の背景を説明できる、②自己決定権の尊重、医療原理の4原則、倫理的課題を説明できる、③医療保険や医療費に関わる制度や病院・病床の機能分化を説明できる、④保健医療領域における社会福祉士、精神保健福祉士、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、薬剤師、介護福祉士、介護支援専門員等の役割を説明できる、⑤多職種連携におけるマルチ・インター・トランスディシプリナリモデルを説明できる、⑥保健医療領域で働くソーシャルワーカーの業務や支援の内容を説明できる、ことを目標とする。				
テキスト・ 参考図書等	『最新　社会福祉士養成講座5　保健医療と福祉』 一般財団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編集　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50%	定期試験、提出物の提出状況及び内容、教員の問いかけに対する応答、授業への参加態度（主体的に他者の発言を聴こう、理解しようとする姿勢、積極的に自分の思いや考えを言語化しようとする姿勢）などを総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	20%	
	その他	30%	

履修上の留意事項	保健医療の課題を持つ人とのかかわりは実践領域を問わないため、本科目はソーシャルワークの専門職を目指すうえで理解すべきものである。各授業とも理解を深めようとする姿勢で意欲的に参加すること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション、保健医療領域におけるソーシャルワーカーの役割、存在意義	医療ソーシャルワーカーの業務指針、保健医療ソーシャルワーク実践
	2	保健医療領域における支援の実際：疾病及びそのリスクがある人の理解	疾病、病者の理解、人生における病の意味、病によって生じる生活上の課題
	3	保健医療に係る倫理：自己決定権の尊重	患者の権利、自律、インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、意思決定支援、アドバンスケアプランニング
	4	保健医療に係る倫理：医療倫理の4原則と倫理的課題	医療倫理の4原則、高度生殖医療、出生前診断、脳死と臓器移植、尊厳死、身体抑制
	5	保健医療の動向：疾病構造の変化、在宅医療の推進	感染症の減少と生活習慣病の増加、社会的入院、在宅医療の役割と課題
	6	保健医療の動向：福祉的課題	依存症、認知症、自殺企図、虐待防止
	7	保健医療に係る政策・制度・サービス：医療保険制度の概要	医療サービス、医療費自己負担、高額療養費、無料低額診療、傷病手当、特定医療費助成制度
	8	保健医療に係る政策・制度・サービス：診療報酬制度の概要	診療報酬制度の体系、社会福祉士が関連する診療報酬
	9	保健医療に係る政策・制度・サービス：医療施設、保険医療対策の概要	病院、診療所、病床の機能分化、保健所の役割、地域医療の指針、5疾病5事業
	10	保健医療領域における専門職の役割と連携：各専門職の役割	医師、歯科医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、介護福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員の役割
	11	保健医療領域における専門職の役割と連携：院内連携・地域医療連携	院内連携、病診連携、病病連携、ソーシャルワーク部門の構築
	12	保健医療領域における専門職の役割と連携：地域包括ケアシステムにおける連携	地域包括ケアシステムにおける多機関・多職種連携、マルチ・インター・トランスディシプリナリモデル
	13	保健医療領域における支援の実際：終末期ケアと認知症ケア	終末期患者と家族への支援、認知症患者と家族への支援
	14	保健医療領域における支援の実際：救急・災害現場における支援	急性期医療機関における患者、家族への支援、DMAT、DWAT
	15	まとめ	各回の要点整理と今後に向けて

授業科目 （科目ID）		担当教員 （実務経験）	有 ☑ 無 ☐
対象年次・学期		担当教員 （実務経験）	有 ☑ 無 ☐
授業形態			
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	社会福祉調査の基礎	担当教員 （実務経験）	米田　龍大 有 ☐　無 ☑		
対象年次・学期	3年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	社会調査の意義と目的及び方法、統計法の概要、社会調査上の倫理や個人情報保護におよぶ広範囲な分野を説明でき、調査から得られたデータをパソコンを用いて適切に分析し結果を提示できるようになることを目的としている。				
到達目標	①社会調査の目的と意義、史的展開、基礎的な社会調査手法について説明できる。②社会調査上の倫理、個人情報の保護、統計法について説明できる。 ③調査研究報告に対し批判的に吟味できる。 ④パソコンを用いて、調査データを適切に分析し結果を提示できる。				
テキスト・ 参考図書等	テキスト:「最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座5　社会福祉調査の基礎」（中央法規） 参考図書:「国民衛生の動向2022年版」（厚生統計協会）、「社会調査の基礎-社会調査士A・B・C・D科目対応」（株式会社　弘文堂）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	授業への参加態度、授業振り返りシート20%と最終テスト80%で評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	20%	

履修上の 留意事項	主に配布資料と教科書を用いて講義を展開する。講義の一部では演習も取り入れる予定であるため、基礎的なパソコンの操作については自主学習が必要になる。教科書以外の参考文献は講義内で適宜伝える。社会調査は根拠に基づくソーシャルワーク実践に必須の科学、技術である。基礎的な知識と技術を獲得できるよう、楽しみつつ集中して取り組んでいただきたい。

履修主題・履修内容

回数	履修主題	履修内容
1	ガイダンス、社会調査概論（1）	本講義の目的、講義の全体像について確認する。 調査法からの反論;批判的に吟味できる。
2	社会調査概論（2）;社会調査の史的発展、統計法	社会調査の歴史的発展、代表的な社会調査について説明できる。 統計法について説明できる。
3	調査法概論（3）;統計法と統計調査の種別	統計調査の概要;公的統計、基幹統計、一般統計調査　他について説明できる。
4	調査法概論（4）;適正な調査の条件	バイアス、交絡、統計的検定（危険率）について説明できる。
5	調査法概論（5）;疫学研究法の理解	記述疫学;スノーの「コレラの感染拡大の阻止」 他について説明できる。 分析疫学;ドル＆ヒルの「喫煙の肺がん発症影響」 他について説明できる。
6	調査の技法（1）;研究デザイン	調査デザイン、操作的定義、データ収集方法について説明できる。
7	調査の技法（2）;調査票の作成（演習形式）	調査票作成時の留意点、調査項目の設定、質問文作成の注意点、変数の種類について説明できる。
8	調査の技法（3）;調査データの取り扱い（演習形式）	調査データの取り扱いに関する留意点、量的解析に向けたデータの取り扱い手法について説明できる。
9	記述統計;適切な図表の作成（演習形式）	図表の特性について理解し、適切な図表を作成できる。
10	推測統計（1）;相関分析、単回帰分析（演習形式）	相関分析、単回帰分析について説明できる。
11	推測統計（2）;平均値の検定、χ（カイ）二乗検定（演習形式）	t検定、χ（カイ）二乗検定について説明できる。
12	推測統計（3）;多変量解析（演習形式）	重回帰分析、ロジスティック回帰分析について説明できる。
13	質的調査の方法（1）	質的調査の概要、調査法の特徴について説明できる。
14	質的調査の方法（2）	質的調査の企画、分析、実施手法について説明できる。
15	総括;根拠に基づくソーシャルワーク実践に向けて	社会調査の有効性と限界について説明できる。 ソーシャルワークにおける社会調査の活用事例について説明できる。

授業科目 （科目ID）		担当教員 （実務経験）	有 ☑ 無 ☐
対象年次・学期		担当教員 （実務経験）	有 ☑ 無 ☐
授業形態			
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	ソーシャルワーク演習Ⅲ	担当教員 （実務経験）	笠師　千恵 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として病院に勤務		
対象年次・学期	3年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	①地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。③実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。④実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。				
到達目標	①ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク実践の展開過程を、実践モデルやアプローチを活用して分析・検討することができる。②ソーシャルワーク実習において体験した事例を、スーパービジョンを通して検討し、ソーシャルワークの価値・知識・技術に照らして体系的に理解できる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新社会福祉士養成講座7　ソーシャルワーク演習［社会専門］』日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	提出物の内容と提出状況、ケース検討やグループディスカッション時の発言内容・言葉づかい・協働の状況により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	60%	
	その他	40%	

履修上の 留意事項	与えられた課題に単に取り組むのではなく、主体的に実践・追究する姿勢を持つよう心がけてください。特に実習体験を取り扱う演習では、他者との共有や配慮（言葉づかいに留意）、受容・共感的な態度で臨むことを徹底してください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション、ソーシャルワーク実践の展開①	本科目の目的と意義、演習の進め方についての確認（ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱの振り返りを含む）、ミクロ・メゾレベルにおける実践事例の検討（インテーク）
	2		ミクロ・メゾレベルにおける実践事例の検討（アセスメント）
	3		ミクロ・メゾレベルにおける実践事例の検討（計画の策定と実施、モニタリング）
	4	ソーシャルワーク実践の展開②	地域福祉の基盤整備・開発にかかる事例の検討・展開（地域住民に対するアウトリーチとニーズの把握）
	5		地域福祉の基盤整備・開発にかかる事例の検討・展開（地域アセスメントと計画の策定）
	6		地域福祉の基盤整備・開発にかかる事例の検討・展開（地域アセスメントと計画の策定）
	7		地域福祉の基盤整備・開発にかかる事例の検討・展開（地域の組織化、社会資源の活用・開発、評価）
	8	ソーシャルワーク実習の振り返り①	実習体験の言語化・概念化
	9		実習体験（場面）の構造的理解
	10		実習体験（場面）の構造的理解に基づく事例の検討
	11		後期実習に向けた課題の設定
	12	ソーシャルワーク実習の振り返り②	実習体験の言語化・概念化
	13		実習体験（場面）の構造的理解
	14		実習体験（場面）の構造的理解に基づく事例の検討
	15		ソーシャルワークの価値、専門知識・技術に照らした事例の理解・評価

	16	実習体験のスーパービジョン①	グループスーパービジョン形式を用いた実習体験の共有（概念化と構造的理解）
	17		実習体験の構造的理解にもとづく事例の検討（分析と評価）
	18		実習体験の構造的理解にもとづく事例の検討（分析と評価）
	19		ソーシャルワークの価値、専門知識・技術に照らした事例の理解
	20	実習体験のスーパービジョン②	グループスーパービジョン形式を用いた実習体験の共有（概念化と構造的理解）
	21		実習体験の構造的理解にもとづく事例の検討（分析と評価）
	22		実習体験の構造的理解にもとづく事例の検討（分析と評価）
	23		ソーシャルワークの価値、専門知識・技術に照らした事例の理解
	24	実習体験のスーパービジョン③	グループスーパービジョン形式を用いた実習体験の共有（概念化と構造的理解）
	25		実習体験の構造的理解にもとづく事例の検討（分析と評価）
	26		実習体験の構造的理解にもとづく事例の検討（分析と評価）
	27		ソーシャルワークの価値、専門知識・技術に照らした事例の理解
	28	実習におけるジレンマ体験の検討①	ジレンマ体験の構造的理解
	29	実習におけるジレンマ体験の検討②	倫理綱領に照らしたジレンマ事例の検討
	30	全体のまとめ	ソーシャルワーク演習において学んだ知識・技術・技能とその習得状況の確認

授業科目 （科目ID）	ソーシャルワーク演習Ⅲ	担当教員 （実務経験）	笠師　千恵 有 ☑ 無 ☐ 社会福祉士として病院に勤務
対象年次・学期	3年・通年	担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
授業形態	演習		
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	担当教員 （実務経験）	高泉一生 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として病院に勤務		
対象年次・学期	3年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	有意義なソーシャルワーク実習Ⅰを行うための準備を行い、実習後は自身の実習体験を振り返り、ソーシャルワークの価値・知識・技術の観点から概念化・理論化し体系立てて行くことができる総合的な能力を涵養する。				
到達目標	①実習の展開や実習生に求められる姿勢・視点、各種記録様式の意味、記載方法等をあらかじめ理解し、事前訪問および実習を遂行することができる。 ②実習体験をジェネリックな枠組みでとらえ直し、ソーシャルワークの専門性について理論と結び付けて見解を述べることができる。				
テキスト・ 参考図書等	適宜、資料を配布する。				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	・左記「レポート」は、事前学習レポート及び事後レポートである。 ・左記「小テスト」は、実習前知識試験である。 ・左記「提出物」は、個人票、実習計画書、事前訪問報告書等の提出内容および提出状況を指す。 （本科目の対象となる提出物と実習の評価対象となる提出物の具体的説明は授業内に行う。） ・左記「その他」は、実習報告会の発表・質疑応答・参加態度を意味し、自ら確認・質問する、メモをとる、他者と協働して取り組むなどの主体的な取り組み姿勢を意味する。
	レポート	35%	
	小テスト	20%	
	提出物	30%	
	その他	15%	

履修上の留意事項	ソーシャルワーク実習指導Ⅱに引き続き、ソーシャルワーカーとしての実習に向けて準備を行います。準備が整わないまま実習に行くことはできませんので全授業に必ず出席してください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	実習の具体的イメージの構築 （高泉・杉浦・吉岡）	個人票・実習計画書の作成、実習様式・報告書様式の確認
	2	実習生の責務 （高泉・杉浦・吉岡）	実習協定書・合意書を通した実習生の責務と権利の理解 個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解
	3	事前訪問の目的と内容、実習前知識確認 （高泉・杉浦・吉岡）	事前訪問の意義目的の理解、実習計画書の3者合意形成 実習前のソーシャルワークに関する知識の確認
	4	実習記録、事例研究の理解① （高泉・杉浦・吉岡）	実習記録、事例研究の実施方法の確認①
	5	実習記録、事例研究の理解② （高泉・杉浦・吉岡）	実習記録、事例研究の実施方法の確認②
	6	訪問指導とスーパービジョン （高泉・杉浦・吉岡）	訪問指導、スーパーバイジーとしての姿勢の確認
	7	実習の振り返り （高泉・杉浦・吉岡）	事例研究の考察
	8	実習の振り返りと課題の明確化 （高泉・杉浦・吉岡）	実習評価表を用いた自己評価と報告書の作成
	9	実習に向けての準備① （高泉・杉浦・吉岡）	次実習における学習の重点項目の整理、再事前学習①
	10	実習に向けての準備② （高泉・杉浦・吉岡）	次実習における学習の重点項目の整理、再事前学習②
	11	実習計画書の協議と共有 （高泉・杉浦・吉岡）	実習計画書の検討 3者間における実習計画書の共有
	12	実習の振り返り （高泉・杉浦・吉岡）	ソーシャルワーク実習としての学び
	13	実習の振り返りと課題の明確化 （高泉・杉浦・吉岡）	実習評価表を用いた自己評価を行うことを通し実習および実習生としての自分を振り返る
	14	実習報告書（総括レポート）の作成 （高泉・杉浦・吉岡）	実習全体を振り返り、言語化する
	15	実習報告会 （高泉・杉浦・吉岡）	自分の実習成果や課題等を伝え、他者の報告から学ぶ

授業科目 （科目ID）	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	担当教員 （実務経験）	杉浦　理恵 有 ☑ 無 ☐ 社会福祉士として児童福祉施設に勤務
対象年次・学期	3年・通年	担当教員 （実務経験）	吉岡　秀典 有 ☑ 無 ☐ 社会福祉士として病院に勤務
授業形態	講義		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	ソーシャルワーク実習Ⅰ	担当教員 （実務経験）	高泉一生 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として病院に勤務		
対象年次・学期	3年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	5単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）		時間数	240時間
授業目的	ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。				
到達目標	①支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用したミクロからマクロに渡る支援計画を作成し、実施及びその評価を行う。 ②総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。				
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて、資料を配布する。				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	・当該科目の評価は、実習先の評価と訪問指導担当教員・学内教員などの教員による評価によって構成される ・実習先の評価は、日本ソーシャルワーク教育学校連盟北海道ブロック統一様式である実習評価表の総合評価が対象となる ・教員による評価は、実習日誌、事例研究、訪問指導時の報告相談、訪問指導記録、実習報告書が対象となる ・詳細は授業にて説明する
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	100%	

履修上の留意事項	実習に臨むためには、良好な健康状態である必要がありますので、各自体調を自己管理し、不調の際はすみやかに病院を受診してください。その結果はもちろんですが、実習状況等に関しても自己判断せずに、教員や実習指導者との相談、連絡、報告を密に行い、協働して進めていくことを忘れずに取り組んでください。また、利用者や実習先の協力に感謝し、謙虚に、貪欲に、主体性をもって実習に臨んでください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	基本的コミュニケーションや円滑な人間関係形成（高泉・杉浦・吉岡・小林）	対人援助の基本的な態度、対象とのかかわり方を学ぶ
	2	利用者理解とニーズ把握および支援計画の作成（高泉・杉浦・吉岡・小林）	実習施設・機関の利用者動向について学ぶ
	3		インテーク～評価までの一連の支援プロセスに関する内容
	4		グループの理解・支援計画について
	5	利用者や関係者との援助関係形成（高泉・杉浦・吉岡・小林）	本人・家族との面接
	6		利用者や関係者（家族を含む）とのかかわり方や関係性の理解
	7	利用者やその関係者への権利擁護及び支援とその評価（高泉・杉浦・吉岡・小林）	権利擁護、エンパワメントの観点からの実践の理解
	8	多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際（高泉・杉浦・吉岡・小林）	他職種とその業務内容・専門性に関する理解
	9		職場におけるチームアプローチの方法、各種会議の運営に関する理解
	10	施設・事業者・機関・団体等の経営や運営管理の実際（高泉・杉浦・吉岡・小林）	実習先の根拠法令、意思決定過程、財務、組織構造の理解
	11	地域の中の施設という理解と地域社会への働きかけ（高泉・杉浦・吉岡・小林）（アウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発）	実習先の地域特性、福祉課題、社会資源の理解
	12		実習先の地域に向けた事業および分野横断的な働きかけの具体的理解
	13	社会福祉士（ソーシャルワーカー）としての職業倫理、組織の一員としての役割・責任に関する理解（高泉・杉浦・吉岡・小林）	社会福祉専門職の価値・倫理、ソーシャルワーカーの業務内容理解
	14		文書様式や記入内容・方法の理解
	15		実習における態度およびスーパービジョンの理解

授業科目 （科目ID）	ソーシャルワーク実習Ⅰ	担当教員 （実務経験）	杉浦　理恵 有 ☑ 無 ☐ 社会福祉士として児童福祉施設に勤務
対象年次・学期	3年・通年	担当教員 （実務経験）	吉岡　秀典 有 ☑ 無 ☐ 社会福祉士として病院に勤務
授業形態	実習		
		担当教員 （実務経験）	小林　智子 有 ☑ 無 ☐ 社会福祉士として成年後見活動に従事
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）		担当教員 （実務経験）	有 □　無 □		
対象年次・学期		必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数（1回90分）		時間数	
授業目的					
到達目標					
テキスト・ 参考図書等					

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の 留意事項	

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	現代の精神保健の課題と支援	担当教員 （実務経験）	鈴木　真人 有 ☑　無 ☐　看護師として病院に勤務		
対象年次・学期	3年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	精神面での保健を体系的に捉え、対応策や予防策を理解する。対象を一人の人として捉え、社会環境問題なども含めて精神保健を総合的に理解する。				
到達目標	精神保健分野での社会からのソーシャルワーカーに期待される役割や果たすべき責任について理解し、精神保健の課題と支援を考えることができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・精神保健福祉士養成講座2　現代の精神保健の課題と支援』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	後期期末テストの素点、および小テストで評価します。
	レポート	%	
	小テスト	20%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の 留意事項	教科書の重要な部分をまとめたプリントを用いて解説していきます。授業で収得した知識の再確認と理解度の把握のため、不定期で小テストを行ないます。授業参加態度が成績評価に影響する場合があるので、積極的に発言するように心掛けてください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	第1章　精神保健の概要	精神保健とは
	2	第2章　現代の精神保健分野の動向と基本的考え方	精神保健の動向 精神保健活動の三つの対象
	3	ライフサイクル	幼児期～学童期
	4		思春期～青年期
	5		成人期
	6		老年期
	7		生活習慣と精神の健康 ストレスと精神の健康
	8		精神の健康に関する心的態度、
	9	第3章　家族に関連する精神保健の課題と支援	現代日本の家族特徴　出産・育児をめぐる精神保健 子育て支援と暴力、虐待予防
	10		介護をめぐる精神保健　認知症高齢者に対する対策 高齢化と精神保健
	11	第4章　精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ	学校教育における精神保健的課題　教職員の精神保健
	12		関与する専門職と関係法規　スクールソーシャルワーカーの役割
	13	第5章　精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ	現代日本の労働環境　産業精神保健とその対策
	14		うつ病と自殺防止対策
	15		飲酒やギャンブルなど依存に関する問題

	16		アルコール問題に対する対策　薬物依存対策
	17		犯罪被害者の支援　反復違法行為と精神保健
	18	第6章　精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ	発達障害者に対する対策
	19		社会的ひきこもりをめぐる精神保健　社会的ひきこもりに対する対策
	20		貧困問題と精神保健　社会的孤立
	21		災害時の精神保健に対する対策
	22		グリーフケア、自死遺族支援
	23		性的マイノリティと精神保健
	24		多文化に接することで生じる精神保健上の問題
	25	第8章　地域精神保健に関する偏見・差別等の課題	関連法規　精神保健にかかわる人材育成
	26		精神保健における偏見・差別
	27	第9章　精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携	国の機関とその役割　精神保健に関係する法規
	28		多職種の役割と連携　地域精神保健にかかわる行政機関の役割 その他の団体
	29	第10章　諸外国の精神保健活動の現状および対策	世界の精神保健の実情
	30		WHOなどの国際機関の活動

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	精神保健福祉の原理	担当教員 （実務経験）	西野　克俊 有 ☑　無 ☐　精神保健福祉士として病院に勤務		
対象年次・学期	3年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み(理念・視点・関係性)について理解する。②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意識を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する。⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。⑦近年の精神保健福祉士の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。				
到達目標	①障害者福祉の理念や歴史的展開から、精神障害の概念を学び、精神保健福祉士の主な対象となる人と社会の捉え方を理解する。 ②人権や社会正義に照らして教訓とすべき考え方を習得し、精神障害のある人々が置かれている状況や生活実態の理解を深め、精神保健福祉士の存在意識を理解し、実践上の着眼点や場面・状況に応じた行動特性を学ぶ。				
テキスト・ 参考図書等	『最新　精神保健福祉士養成講座5　精神保健福祉士の原理』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集　中法法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	定期テストの点数を換算し、60%での評価を行う。 また、レポート及び提出物の点数を換算し、40%での評価を行う。
	レポート	20%	
	小テスト	%	
	提出物	20%	
	その他	%	

履修上の 留意事項	教科書・プリントを使用し、講義およびグループワークを行う。 また、積極的受講態度で、知りたいという意欲を持ちながら授業に参加してください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	障害者福祉の思想と原理について
	2	障害者福祉の理念について①	ノーマライゼーション・ソーシャルインクルージョン等
	3	障害者福祉の理念について②	エンパワメント・自立生活・機会均等　等
	4	障害者福祉の歴史的展開について①	基本的人権の保障・自立支援
	5	障害者福祉の歴史的展開について②	社会参加支援・権利保障
	6	国際機能分類について	ICIDH・ICFの理解
	7	制度における「精神障害者の定義」について	障害者基本法・障害者総合支援法・精神保健福祉法
	8	精神障害者の障害特性について	蜂矢モデル・上田モデル
	9	諸外国の動向について	ピアーズ・魔女裁判・ピネル等
	10	日本の精神保健福祉政策に影響のあった出来事①	相馬事件・ライシャワー事件
	11	日本の精神保健福祉政策に影響のあった出来事②	宇都宮病院事件・大和川病院事件
	12	日本の精神保健福祉政策に影響のあった出来事③	池田小学校事件・相模原事件
	13	社会的障壁の理解について①	結核事項・強制不妊手術等
	14	社会的障壁の理解について②	コンフリクトの種類等
	15	社会的障壁の理解について③	人権侵害・アルコール・薬物問題等

	16	精神科医療の特異性について①	強制入院・治療・精神科特例等
	17	精神科医療の特異性について②	隔離・身体拘束・多剤併用等
	18	精神障害者の家族について	保護義務者の歴史・家族の多様性等
	19	精神保健福祉士の資格化に至る経緯について	精神医学ソーシャルワーカー協会・Y問題等
	20	原理・価値について	社会的復権と権利擁護・自己決定・当事者主体等
	21	観点・視点について	人と環境の相互作用・アンチスティグマ等
	22	関係性について	加害者性・援助関係・協働関係等
	23	精神保健福祉法について	法の目的・定義・義務規定等
	24	精神保健福祉士の職業倫理について①	倫理綱領等
	25	精神保健福祉士の職業倫理について②	倫理的ジレンマ等
	26	精神保健福祉士の業務特性について	業務構成・包括的アプローチ・連携等
	27	精神保健福祉士の職場・職域について	医療・福祉・行政・教育・司法・産業等
	28	精神保健福祉士の業務内容と業務指針について①	業務指針・業務分類等
	29	精神保健福祉士の業務内容と業務指針について②	指針に基づく業務の展開例等
	30	まとめ	総合的まとめ

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目（科目ID）	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	担当教員（実務経験）	山口　愛 有 ☑　無 ☐　精神保健福祉士として産業メンタルヘルスに勤務		
対象年次・学期	3年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	・精神障害および精神保健福祉士の課題に対するソーシャルワークの理論とその方法の過程を理解し、実践力をつける。 ・精神障害者および精神保健福祉の課題をもつ人と家族の関係を理解し、対象者とその家族への支援方法を獲得する。 ・精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入、組織活動の展開に関する概念と方法を理解し、実践力をつける。 ・精神保健福祉分野以外の実践展開に必要な知識・技術を理解し、実践力をつける。				
到達目標	・精神障害と精神保健福祉の課題と、精神保健福祉士がどのようにソーシャルワーク展開を行うか説明できるようになる。・精神保健福祉士として、地域課題に必要な知識・技術を活用し、自らの専門分野に固執せず、他の保健医療福祉専門職、異業種の専門家、障害当事者や地域住民との連携、協働を推進できるようになる。 ・既存の実践知と支援システムの対象、効果、課題、限界などを知り、多様化する精神保健福祉課題の解決に資する理論やモデルを生成するために、知識・技術を発展させる志向性・創造性をもつよう努力できる。				
テキスト・参考図書等	『最新　精神保健福祉士養成講座6　ソーシャルワークの理論と方法』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	・定期試験の点数・記述内容ほか演習授業等への参加姿勢、学習意欲、論点理解、小テスト（確認テスト）の点数、その他提出物の文章構成スキル、要約スキルを総合して評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	20%	
	その他	20%	

履修上の留意事項
授業実施は、教科書を中心に、パワーポイントで内容を示しながら進める場合（山口）と、板書にて進める場合（高張）があります。パワーポイントで示す場合は、板書を行いませんので、各自教科書を参照しノート等にまとめながら理解を深めるようにしてください。専門職の学習は、獲得した知識・技術を実際にどのように使うのか（状況、実施場面、タイミング、対象者）を想定しインプットを行いましょう。授業により、理解を問う確認テストを行う場合があります。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要（高張）	ソーシャルワークの構成要素・展開過程
	2	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要（高張）	ソーシャルワークの基本視点・ミクロマクロレベルにおける展開
	3	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法（高張）	援助関係の形成技法・インテーク
	4	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法（高張）	アセスメント（情報分析・本人や環境の理解・ツールの使用）
	5	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法（山口）	面接技術とその応用（面接構造・面接技術）
	6	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法（山口）	集団援助技術（グループワークの概念・意義・方法・展開過程）
	7	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法（山口）	集団援助技術の実際（演習）
	8	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法（山口）	アウトリーチ（精神保健福祉士の役割・それぞれのケース理解）
	9	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法（高張）	支援の展開（人・環境へのアプローチ）事例分析
	10	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法（高張）	支援の展開（ケアマネジメント）・ストレングスモデル
	11	精神保健福祉分野における家族支援の実際（山口）	精神障害者家族の課題（精神保健福祉法と家族・ケアラーの支援）
	12	精神保健福祉分野における家族支援の実際（山口）	家族理解の変遷・家族支援の方法（対象と機能・方法）
	13	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法（山口）	面接技法（傾聴スキル）
	14	精神保健福祉分野における家族支援の実際（山口）	家族支援の実践的理解
	15	コミュニティワーク（高張）	精神保健福祉分野のコミュニティワークの意義と実践

	16	コミュニティワーク（高張）	地域における精神保健福祉の向上（住民参加・予防的アプローチ）
	17	ソーシャルアクションへの展開（高張）	基本的視点、個別支援から地域における体制整備、政策提言と展開
	18	ソーシャルアクションへの展開（高張）	精神障害者の地域移行・地域定着に関わる展開
	19	他職種連携・他機関連携（チームアプローチ）（山口）	連携の意義と目的、他職種連携・他機関連携の留意点
	20	他職種連携・他機関連携（チームアプローチ）（山口）	チームビルディング・ファシリテーション
	21	他職種連携・他機関連携（チームアプローチ）（山口）	チームの形態と特徴・精神保健福祉領域のチームと形態
	22	他職種連携・他機関連携（チームアプローチ）（山口）	連携における精神保健福祉士の役割、チームアプローチの実際
	23	ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義（高張）	ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義
	24	ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義（高張）	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法
	25	ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義（高張）	人材確保と人材育成
	26	ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義（高張）	事例演習
	27	関連分野における精神保健福祉士の実践展開（山口）	学校教育分野（スクールソーシャルワーカー・業務内容と課題）
	28	関連分野における精神保健福祉士の実践展開（山口）	産業分野（産業分野の精神保健福祉士の特徴）・EAPの支援事例
	29	関連分野における精神保健福祉士の実践展開（山口）	司法分野（司法分野の支援内容・被害者等の支援・実践課題）
	30	関連分野における精神保健福祉士の実践展開（山口）	災害分野（精神保健福祉士が行う災害支援活動）

授業科目 （科目ID）	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	担当教員 （実務経験）	高張　峰治 有 ☑ 無 ☐ 精神保健福祉士として相談支援事業所に勤務
対象年次・学期	3年・通年	担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
授業形態	講義		
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目（科目ID）	精神障害リハビリテーション論	担当教員（実務経験）	遠藤　克彦 有 ☑ 無 ☐　精神保健福祉士として病院に勤務		
対象年次・学期	3年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	精神障害リハビリテーション論は、精神保健ソーシャルワークと精神障害リハビリテーションの関係を整理したうえで、精神障害リハビリテーションについて詳しく学ぶ。				
到達目標	精神障害リハビリテーションの概念やリハビリテーションプログラムを理解し、援助場面で活用できる。				
テキスト・参考図書等	『最新　精神保健福祉士養成講座3　精神障害リハビリテーション論』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	ペーパーテストにて評価します。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	テキストや最新情報を取り入れ、精神保健分野で行われているリハビリテーションを中心に学習していく。また、精神障害当事者や家族の方々、その取り巻く環境を深く理解されていくことを望む。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク	精神障害リハビリテーションとソーシャルワークの関係
	2	精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク	精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割
	3	精神障害リハビリテーションの理念・定義、基本原則	理念と定義
	4	精神障害リハビリテーションの理念・定義、基本原則	医学的、職業的、社会的、教育的リハビリテーション
	5	精神障害リハビリテーションの理念・定義、基本原則	基本原則
	6	精神障害リハビリテーションの理念・定義、基本原則	リカバリー概念とリハビリテーションの意義
	7	精神障害リハビリテーションの構成および展開	精神障害リハビリテーションの対象
	8	精神障害リハビリテーションの構成および展開	チームアプローチ、精神障害リハビリテーションのプロセス
	9	精神障害リハビリテーションプログラムの内容	医学的リハビリテーションプログラム
	10	精神障害リハビリテーションプログラムの内容	職業的リハビリテーションプログラム
	11	精神障害リハビリテーションプログラムの内容	社会的リハビリテーションプログラム
	12	精神障害リハビリテーションプログラムの内容	教育的リハビリテーションプログラム
	13	精神障害リハビリテーションプログラムの内容	家族支援、その他のプログラム
	14	精神障害リハビリテーションの動向と実際	当事者や家族を主体としたリハビリテーション
	15	精神障害リハビリテーションの動向と実際	依存症のリハビリテーション

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目（科目ID）	精神保健福祉制度論	担当教員（実務経験）	定平　憲之 有 ☑　無 ☐　精神保健福祉士として病院に勤務		
対象年次・学期	3年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	精神障害者に関する法制度の体系について理解する。また、生活支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。				
到達目標	精神保健福祉法、医療観察法などについて理解するとともに、精神保健福祉士の役割について説明することができる。				
テキスト・参考図書等	『最新・精神保健福祉士養成講座4　精神保健福祉制度論』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	90%	定期試験、小テストにて評価を行う。
	レポート	%	
	小テスト	10%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	適宜プリントを配布し、必要に応じて視聴覚教材を活用します。精神保健福祉士にとって中核となる科目であり、積極的かつ十分な学習を心がけてください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	精神障害者に関する制度・施策の理解	精神障害者に関する制度活用の流れ
	2	精神障害者の医療に関する制度	精神保健福祉法の概要
	3	精神障害者の医療に関する制度	入院形態等
	4	精神障害者の医療に関する制度	人権擁護（精神医療審査会等）
	5	精神障害者の医療に関する制度	医療観察法の概要
	6	精神障害者の医療に関する制度	精神保健参与員と社会復帰調整官
	7	精神障害者の医療に関する制度	精神障害者の医療と関連する施策
	8	精神障害者の生活支援に関する制度	障害者総合支援法の概要
	9	精神障害者の生活支援に関する制度	居住支援制度
	10	精神障害者の生活支援に関する制度	就労支援制度
	11	精神障害者の生活支援に関する制度	相談支援制度
	12	精神障害者の経済的支援	生活保護
	13	精神障害者の経済的支援	生活困窮自立支援制度
	14	精神障害者の経済的支援	障害年金
	15	まとめ	

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	ソーシャルワーク演習Ⅳ	担当教員 （実務経験）	田中　航 有 ☑　無 ☐　精神保健福祉士として就労継続支援事業所に勤務		
対象年次・学期	3年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。				
到達目標	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、取り巻く状況や環境を含めて理解する力を養うこと、また「当事者主体・当事者を中心としたチームアプローチの考え方」を主軸に置き、精神保健福祉士として当事者に届く相談援助の方法について理解し、「説明できる」・「実践できる」技能の習得を目指す。				
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて資料を配布する。 参考図書：『失敗ポイントから学ぶ PSWのソーシャルワークアセスメントスキル』大谷京子，田中和彦　中央法規出版 『医療スタッフのための 動機づけ面接法 逆引きMI学習帳』北田雅子　医歯薬出版				

評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	グループディスカッション、ロールプレイの参加姿勢、発言内容、レポートや課題の提出状況などにより評価する。
	レポート	40%	
	小テスト	%	
	提出物	40%	
	その他	20%	

履修上の 留意事項	精神障がい者に対する援助技術及びリハビリテーション技術が身につくよう、精神障がい者の社会復帰に関する援助事例を取り上げるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導の下で、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で事例検討及びロールプレイ等を行う。演習事例やグループディスカッションでは積極的な発言を求めます。

履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	演習の目的と意義、授業の進め方、評価方法
	2	個別援助技術	ラポール形成、個別面接、制度説明
	3	〃	〃
	4	課題別相談援助事例①	受診・受療・入院相談援助事例の検討（インテーク面接、アセスメンの視点、情報の収集・分析・全体状況の把握、情報の統合）
	5	〃	〃
	6	〃	〃
	7	課題別相談援助事例②	退院支援、地域移行支援、地域生活継続支援事例の検討（ケアマネジメント、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用）
	8	〃	〃
	9	課題別相談援助事例③	精神科リハビリテーション場面における個別・集団支援事例の検討
	10	〃	〃
	11	課題別相談援助事例④	地域における精神保健に関する事例の検討（薬物・アルコール依存事例）
	12	〃	〃
	13	課題別相談援助事例⑤	訪問型支援、ピアサポート、家族支援事例の検討（アウトリーチ、心理教育について）
	14	〃	〃
	15	全体のまとめ	演習において学んだ知識、技術、技能の習得状況の確認

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	担当教員 （実務経験）	田中　航 有 ☑　無 ☐　精神保健福祉士として就労継続支援事業所に勤務		
対象年次・学期	3年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	精神保健福祉士としての基本的態度、視点を身につけ、自らの課題を把握するとともに、専門的知識・技術を習得することを目的とする。				
到達目標	①精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態やニーズを把握する。 ②実践的な技術等を体得するとともに、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。				
テキスト・ 参考図書等	『最新　精神保健福祉士養成講座8　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習』 一般財団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	グループディスカッションでの参加態度、担当教員からの問いかけに対する応答、課題の取り組み姿勢や内容およびプレゼンテーションを総合的に評価する。
	レポート	30%	
	小テスト	%	
	提出物	30%	
	その他	40%	

履修上の留意事項	これまでの実習を振り返り、自らの実習の目的、課題を再確認して臨んでください。現場で多くの成果を得るためには、事前準備が必要です。事前準備では、精神疾患・精神障害に関する知識、精神保健福祉法をはじめとする各種法律・制度の理解は必須です。また、自らの今後の課題を設定し、精神保健福祉士としての準備につなげてください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	実習の目的と意義
	2	精神保健福祉の現状	対象者の理解
	3	精神保健福祉の現状	精神障害者の入院状況、就職状況などの生活状況
	4	精神保健福祉士として求められる資質や能力	自己覚知
	5	精神障害福祉領域の実践フィールドの理解	医療機関
	6	精神障害福祉領域の実践フィールドの理解	地域機関
	7	実習へのイメージ形成と課題の明確化	実習先について
	8	実習へのイメージ形成と課題の明確化	実習先の選定
	9	現場体験学習	障害福祉サービス事業所の理解
	10	現場体験学習	〃
	11	実習における記録の書き方	実習日誌、プロセスレコードの書き方
	12	実習における記録の書き方	〃
	13	実習における記録の書き方	〃
	14	当事者の語り	当事者から学ぶ
	15	当事者の語り	〃

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	国家試験対策Ⅰ	担当教員 （実務経験）	高田　友子 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として社会福祉協議会に勤務		
対象年次・学期	3年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	自分が受験する社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士国家試験の概要を理解し、受験に向けての心構え、学習姿勢を整える。 また、本授業を通して、国家試験合格に向けた勉強の仕方を身につける。				
到達目標	①他者と協働して学習に取り組むことができる。②根拠をもって正答を導き出すことを意識する。③過去問題を8割解答できるようにする。				
テキスト・ 参考図書等	『社会福祉士国家試験過去問解説集2024』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版 （参考図書）『社会福祉士国家試験模擬問題集』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70%	・左記「その他」は、グループでの取り組み状況、グループでの成果物の評価です ・提出物は、宿題を課しますので、その提出状況および内容の評価となります ・試験は定期試験ではおこないませんが、まとめの評価対象試験を実施します
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	10%	
	その他	20%	

履修上の留意事項	本履修を通して国家試験合格に向けた勉強方法を身につけることを望みます。グループでの取り組みもその1つです。資料の整理、問題の解き方、メモやノートのつくり方など「やりっぱなし」にならないように習慣づけてほしいと思っています。グループでは平等に発言の機会を持ってほしいと期待しています。計画的な学習を意識してください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	国家試験の概要理解	社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士国家試験の概要理解 国家試験合格をめざす理由を考える、効率的な勉強方法を学ぶことができる
	2	本科目の概要理解	本科目で取り扱う内容・評価、取り組み姿勢として期待すること
	3	全国模擬試験の復習	全国模擬試験の問題を振り返る
	4	全国模擬試験の復習	全国模擬試験の問題を振り返る
	5	科目別知識の習得	社会保障（過去問も使用）
	6	科目別知識の習得	社会保障（過去問も使用）
	7	科目別知識の習得	社会保障（過去問も使用）
	8	科目別知識の習得	社会保障（過去問も使用）
	9	科目別知識の習得	社会保障の知識の確認
	10	科目別知識の習得	現代社会と福祉（過去問も使用）
	11	科目別知識の習得	現代社会と福祉（過去問も使用）
	12	科目別知識の習得	現代社会と福祉（過去問も使用）
	13	科目別知識の習得	現代社会と福祉（過去問も使用）
	14	科目別知識の習得	現代社会と福祉の知識の確認
	15	全体のまとめ	全体を通しての知識の確認

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	卒業研究Ⅰ	担当教員 （実務経験）	吉岡　秀典 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として病院に勤務		
対象年次・学期	3年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	自分の研究テーマをもち、調べ学習を行う過程で情報収集の方法、表現方法、説明力、分析力、考察力などを身につけることを目的とする。また、今年度の取り組みを4年次の卒業研究につなげる。				
到達目標	①文献や報告書等を読み、要点をとらえ、自分の考えをもつ、②自身の研究テーマの魅力を他者に説明することができる				
テキスト・ 参考図書等					

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	授業内に提示される課題の内容および提出状況、主体的な取り組み状況やテーマに関するプレゼンテーション（発表内容、パワーポイントの出来栄え、質疑応答）により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	50%	
	その他	50%	

履修上の留意事項	授業を通して自身の「福祉観」を振り返り、どのような実践者を目指すのかを考える機会とすることを望む。テーマの探索、文献の検索や収集などは主体的に行い、収集した文献・データは整理整頓して常に持参すること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	科目の目的、内容、評価 自分の研究テーマの設定
	2	研究テーマの発表	自分の研究テーマとその理由につきプレゼンテーションを行い全体で共有する
	3	取り組み形態の検討	グループ研究、個人研究の検討
	4	文献検索の方法	文献検索の仕方を理解し、検索を行う
	5	執筆要領の確認	文献引用の仕方、出典の明記方法など基本的な記載ルールの把握
	6	個別指導・集団指導	文献収集、文献読み込み
	7	個別指導・集団指導	文献収集、文献読み込み
	8	個別指導・集団指導	文献収集、文献読み込み
	9	個別指導・集団指導	文献収集、文献読み込み
	10	個別指導・集団指導	文献収集、文献読み込み
	11	個別指導・集団指導	文献収集、文献読み込み
	12	発表資料の作成	発表用パワーポイント作成、発表原稿の作成
	13	発表資料の作成	発表用パワーポイント作成、発表原稿の作成
	14	卒業研究発表	自分の研究テーマにつき、調べた内容および今後の取り組みについて発表する
	15	卒業研究発表	自分の研究テーマにつき、調べた内容および今後の取り組みについて発表する

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	キャリアデザインⅢ	担当教員 （実務経験）	高泉　一生 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として病院に勤務		
対象年次・学期	3年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	本科目は、各人が自分自身の『こうありたい』という自己イメージを明確にし、その実現のためにどうすれば良いのかを考えるとともに、4年間を見据えた各学年における方向性を構想・実践することを目的としている。				
到達目標	①福祉専門職の資格の意味を考え、その取得によって伴う責務を述べることができる。 ②国家試験問題の見方や見直しの仕方を理解し、自己分析しながら計画的に学習を進める基礎が備わっている。 ③履歴書の意味や書き方を理解し、自己アピールのポイントをおさえている。				
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて、配布する。				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	30%	・左記の試験は「模擬試験」の受験とその点数を意味する。 ・提出物の提出状況や内容、授業への参加姿勢により総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	20%	
	その他	50%	

履修上の 留意事項	各人が自分自身を客観視でき、自分自身の将来についての方向性を持ち、その実現のための手掛かりを得ること、また有意義な学生生活を送ることを期待する。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	目標設定	前年度の振り返りと今年度の個人目標とクラス目標の検討、決定
	2	資格取得の意味	ソーシャルワーカーにとって資格とは何か
	3	専門学校の特性と学習課題	専門学校の強みと弱み、意識すべき学習課題
	4	実習にむけた準備①	ソーシャルワーク実践の理解①
	5	実習に向けた準備②	ソーシャルワーク実践の理解②
	6	資格取得に向けて①	国家試験内容の確認と取り組み計画
	7	資格取得に向けて②	国家試験問題の見方
	8	資格取得に向けて③	社会福祉士国家試験問題への取り組み（全国模試）
	9	資格取得に向けて④	精神保健福祉士国家試験問題への取り組み（全国模試）
	10	資格取得に向けて⑤	介護福祉士国家試験問題への取り組み（全国模試）
	11	資格取得に向けて⑥	国家試験受験に向けた課題の明確化
	12	就職に向けた準備①	履歴書の意味と書き方の理解
	13	就職に向けた準備②	面接のポイント理解・実践
	14	交流会	社会福祉学科の交流・企画・進行
	15	振り返りと自己評価	1年間を振り返り、今後の課題を明確化する